

## ご挨拶

愛には、

お互いが惹かれ想い合う恋、愛 親が子を愛おしく思う無償の愛 師や友、仲間を大切に思う愛 たくさんの人々の幸福を祈る慈しみの愛 牛きているものや自然に感謝する愛

たくさんの愛があって、

美しさには、

花が咲き、花が散る、美しさ 葉が露を湛え、やがて溢れるときのような美しさ 強い心に秘めた、切ない心、優しい心の美しさ 凛として、決然として進んでいく姿の美しさ 相反するもの、意外性から生まれてくる美しさ

いろいろな美しさがあって、

その何倍もの、言葉に表せない想いや、色、流れ、 そして愛と美しさを表現することが 赦された音の世界は、 私にとって、イマジネーションに満ちた 創造的な精神世界です。

演奏を通じて、 そのようなものの何かを感じ得ていただけたら、 何よりの喜びです。

本日は、ご来場いただきましてありがとうございます。 沢山の方々の支え、応援で、今のわたくしが在ります。 今後とも精進してまいりますので、 これからもよろしくお願い申し上げます。

心からの愛と感謝と祈りを込めて。

田中理恵



#### 第一部

バッハ 平均律クラヴィア曲集 第2巻 第14番 嬰ヘ短調 BWV.883
Bach, Johann Sebastian The Well-Tempered Clavier Book 2 No.14 in F-sharp minor BWV.883
ハイドン ピアノソナタ 第62番第1楽章 変ホ長調 op.82
Haydn, Franz Joseph PianoSonate für Klavier Nr.62 Es-Dur Hob.XVI:52 op.82
シューマン 森の情景のp.82 第1曲 森の入り口/第6曲 宿屋
Schumann, Robert WaldszenenOp.82
金子 みすず(詩)田中 理恵(作曲) 花のたましい

シューベルト 4つの即興曲 作品90 第3番 変ト長調 D899 Schubert, Franz 4Impromptu op.90 no.3 Ges-dur ショバン 幻想即興曲op.66 Chopin, Frederic | Fantasie -|Impromptu cis-Moll Op.66

#### 第二部

ショパン アンダンテスピアナートと華麗なる大ポロネーズ 変ホ長調 作品22 Chopin, Frederic Andante spianato et Grande Polonaise brillante Esdur op.22

武満 徹 雨の樹・素描 II ~オリヴィエ・メシアンの追憶に Takemitsu, Toru Rain Tree Sketch II, In Memoriam Olivier Messiaen

ショパン バラード第1番 ト短調 作品52 Chopin, Frederic Ballade no.1 Gminor op.52 ショパン バラード第4番 ヘ短調 作品52

Chopin, Frederic Ballade no.4 F minor op.52

#### ~生命、宇宙~

1、バッハ 平均律クラヴィア曲集 第2巻 第14番 嬰ヘ短調 BWV.883

「平均律」と言われていますが、バッハ自身は「ほどよく調律された」という意味で使っています。と言うのも、平均律とはそれまでの古典調律法とは違い、1オクターブを均一に12等分した調律法の事です。(機械的に全ての半音を同じ音程で並ばせ、24調どの調で弾いてもきれいな響きで聴こえるように固定している調律法を平均律と言うのです。)このバッハの平均律は、第1巻がケーテン時代(1717~1723)に作られ"ほど良く調律されたクラヴィーアのための"と表記されていますが、第2巻は晩年の1744年に集大成され、一巻に比べ、精神性の高い作品となっています。こちらには前述のような表記はなく"24の新しい前奏曲とフーガ"と記されているだけです。しかし現在では平均律第2巻と呼ばれています。今回演奏させていただきます14番は、オーボエで奏でられるような右手の旋律が流れるように美しいプレリュードと、主題が3種類あるトリプル・フーガで『平均律』の中で最も複雑なフーガの構成で出来ております。多彩な転調や技巧的な多声部は、見られないのですが、自由の中にある抑圧された厳しく制限された世界。限りないものと限りあるもの。生と死。そしてそこから広がる宇宙を感じずにはいられない曲です。

#### ~希望~

2、ハイドン ピアノソナタ 第62番第1楽章 変ホ長調 op.82 今は亡き恩師とご家族に連れて行って頂いたエステルハージ城。 そこは、ハイドン(1732-1809)が、長年宮廷音楽家として仕えた場所でした。宮廷音楽家として活躍しながらも膨大な数の作品を書き、交響曲やソナタ、弦楽四重奏曲の基本形式を確立したハイドンは、モーツァルトに影響を与え、ベートーヴェンを指導し、古典派の発展に重要な役割を果たした作曲家であります。



また第52番のピアノソナタは、30年仕えたエステルハージ家を離れ、自由な音楽家として多くの傑作を生み出した時期の作品、最後期のピアノソナタ(イギリス・ソナタの第三曲)です。作曲年は1794年から1795年のロンドン旅行の時に書かれたという定説、出版年は1798年。初めてペダルを指示した曲として有名です。また、第52番の自筆譜には、当時の人気女流ピアニストでクレメンティの弟子、テレーゼ・ジャンセン・バルトロッツィへの献辞が書かれており、ジャンセンに献呈されたと言わています。重厚感のある豊かな和音で始まるこのソナタは、暖か味のある音色と華やかなテクニックが詰まっていて、ハイドンのクラヴィーア・ソナタの最高傑作と言われています。「真の自由の味とはなんと甘美なものだろう。」と、エステルハージ家のニコラウス侯爵の訃報に触れたときに、友人の手紙に書いています。勿論、エステルハージ家あってのハイドンですが、どの記録からも、幸せな晩年だったことが窺えます。

#### ~森への憧れ、神秘~

3、シューマン 森の情景op.82 第1曲 森の入り口/第6曲 宿屋

シューマン(1810-1856) 彼の幻想的かつ奇抜で、気まぐれな音楽は文学的な暗示に満ち、ロマン派の理想とされています。そしてドイツの初期ロマン派文学の純真な精神を表現するという、誰にも成し得なかった試みに成功しました。森の情景op.82は、小学生の頃に弾いて、音数の少ない中に生まれるオーラとその美しさに、子どもながらに気に入っていたので、今は生徒にも紹介しています。

ドレスデンで1848年12月19日から翌年の1月6日にかけて、わずか1週間ほどで作曲されました。彼はアイヒェンドルフらの詩に親しみ、詩の世界を音楽で表現することを求め、この9曲の作品それぞれに題名をつけました。最初は全曲に短い詩がついていましたが、第4曲目の詩以外は全て彼が取り除きました。彼の深いロマンティシズムを感じさせ、同時に深い感情が込められているようで、彼の精神不安が現れているように感じられます。

~花への憧れ、賛美~ 4、花のたましい 作詩 金子みすゞ 作曲 田中理恵

散ったお花のたましいは、 み仏さまの花ぞのに、 ひとつ残らずうまれ<u>るの。</u>

だって、お花はやさしくて、 おてんとさまが呼ぶときに、 ぱっとひらいて、ほほえんで、 蝶々にあまい蜜をやり、 人にゃ匂いをみなくれて、

風がおいでとよぶときに、 やはりすなおについてゆき、

なきがらさえも、ままごとの、御飯になってくれるから。

## ~純粋な愛、その奥にある孤独~

5、シューベルト 4つの即興曲 作品90 第3番 変ト長調 D899 父のもとをとび出し、家庭を持たず、「さすらい人」として暮らして きたシューベルト。愛に溢れたこの即興曲は亡くなる一年前の 1827年の夏から冬にかけて作られました。しかし、シューベルトを



知れば知るほど、孤高なシューベルトのその純粋で気高い音楽に涙が溢れます。数多くの真摯な友情に囲まれながらも、苦悩と孤独が癒えることはなかったのでしょうか。

ぼくは異郷をさまよい、何年も歌い続けた。ぼくが愛を歌うと、それは苦しみになった。苦しみを歌うと、 それは愛になった。ぼくはこうして愛と苦しみに引き裂かれた。(寓話的断片「ぼくの夢」、1822年)

#### ~美しく感傷的な流れを湛え~

6、ショパン 幻想即興曲op.66

即興曲第4番嬰ハ短調遺作作品66。誰もが知っている名曲「幻想即興曲」。ショパンは生前出版しなかった作品は全て処分してほしいと友人ユリアン・フォンタナに言い残してこの世を去っていますが、当然その中にはこの有名な即興曲が入っていまして、フォンタナはショパンの残した隠れた名曲の数々が 闇



ウィーンにて、亡き恩師文子先生と、先生の師 匠ディヒラー先生に幻想即興曲を聴いていた だいているシーン

に葬り去られることは惜しいと考えたのか、次々に遺作として出版することになります。左手の6連符のリズムに対して、右手は16分音符の早いメロディー。(左が3つの音符に対して、右手で4つの音符となる)この平行しながら決して交わらない流れと半音をここまで美しく感傷に満ちた旋律へと導く魔術師ショパンの魅力がこの曲をより人々の心を離さないのかもしれません。1834年。24歳の作品です。

### 第二部

#### ~王と王妃の物語~

1、ショパン アンダンテスピアナートと華麗なる大ポロネーズ 変ホ長調 作品22

アンダンテ・スピタナートと華麗なる大ポロネーズ。映画「戦場のピアニスト」で主人公が最後、オーケストラと共に弾きエンディングを飾った曲としても有名で、初期の傑作として名高い作品です。〈華麗なる大ポロネーズ〉は、1830年9月から、ウィーンに滞在中の1831年7月に完成されました。ポロネーズに先行される〈アンダンテ・スピアナート〉は、序奏として1834年に作曲、1836年に出版され、デスト男爵夫人に献呈されました。

スピアナートとはイタリア語で「落ち着いた」という意味で、その名の通り滑らかな左手の伴奏に乗り、瞑想的なメロディが奏でられていますが、level(平らに、水平に)というような意味もあります。スピアナートなアンダンテ。水平線の彼方まで海が広がるような、また地平線のかなたまで続くポーランドの草原の情景が浮かんでくるようです。

中間部は、いかにもショパンらしい媚びない切ないマズルカ風。三部形式とコーダからなっているポロネーズ部は、オーケストラ序奏から始まり幕開けします。王と王妃の物語のような、貴族の香りがする華麗で明るく、真珠のような粒立ちが印象的な一曲。

## ~魂の会話、融合、行く末~

2、武満 徹 雨の樹・素描 II ~オリヴィエ・メシアンの追憶に

武満徹(1930-1996)は、主にドビュッシーやメシアンなどの作品を聴き、独学で作曲技法を身につけました。彼の作品には、常に自然と日本の伝統文化に寄せる愛が表現されています。

雨の樹 素描IIは1992年の作品。雨をテーマにした作品で、ピアノのために書かれるのは雨の樹 素描

が最初となります。タイトルにある「素描」には、絵画におけるデッサンの意味が込められているのかもしれないです。

素描と素描IIには、十六分音符を主体に音を敷きつめたテクスチュアな要素があります。素描IIでは、 上行形アルベジオが主体となる中間部に、追憶曲のテクスチュアが表れています。そして十六分音符 を六回連打するリズム・パターンを繰り返す点には、メシアンへのオマージュが示されています。そこに は、武満徹の雨のコンセプトとメシアンの音楽語法が共鳴しているのを感じさせられます。

#### ~迸る情熱、張り裂ける哀しみ~

3、ショパン バラード第1番ト短調 作品52

ミツキェヴィッチの「コンラード・ワーレンロッド」(リトアニアが十字軍に敗れて独立を失い、七歳の王子コンラード・ワーレンロットは捕虜となった。敵方の首領の養子として成長した彼はやがて十字軍きっての勇敢な騎士となって、首領に選ばれる。そこで彼は知略をめぐらし、母国リトアニアを独立させることに成功するが、自分自身は十字軍の裏切り者として処刑される』)という詩から着想されたと言われている。1931年から35年の間に書かれました。20代前半、ショパンがこれほどの大作を作ったのは初めてで、迸る情熱や情緒的なパッセージは極めて魅力的です。シューマンはショパンの作品の中で一番気に入っていたとされています。悲しみも喜びも直接的に訴え歌い上げる作品。

### ~静かに堪え、やがて溢れる、彼方への想い~

4、ショパン バラード第4番 ヘ短調 作品52

ミツキェヴィッチの『ブドゥリ家の3人』)(リトアニアの物語)という詩から着想されたと言われています。1842年から43年、ワルシャワ時代の恩師ジヴヌィや親友のマトゥシニスキが死去するなど、ショパンにとって精神的打撃の多い年に書かれました。ショパンがパリの社交界で華やかな活動を続けていた時期でもあります。ショパンのバラード中、最も規模が大きく、ショパンの最高傑作と評価する人もいる作品です。その一方、同年の恩師や親友の死によるショパンの精神的打撃を反映するかのような、奥深くからこみ上げる内面的な訴えを感じます。弾いていて胸が詰まったり、悲しくなったり、幸せな気持ちを与えてくれたり、言葉にはできないインスピレーションを沢山感じる作品です。



株式会社山野楽器

https://www.yamano-music.co.jp/ 03-3562-5051

# YASUI HIDEO ATELIER

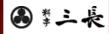
株式会社安井秀夫アトリエ (一級建築士事務所)

http://www.yasui-atr.com/main.html 03-3498-5633

M.C.L.A.,Inc.

.LosAngels

mkt51@mcla.co.jp 090-2536-6775



料亭三長(会員制料亭) http://sanchou.jp/ 03-3461-2424

## 中国古美術 太 田

古美術太田(中国古美術専門) http://www.antiques-oota.com/ 03-3574-4255

## 田中理恵後援会

後援会事務局

090-3067-8106 riepiano0531@gmail.com

## 田中理恵 プロフィール

3歳からピアノ、6歳から作曲を始める。国立音楽大学附属音楽高等学校音楽科、国立音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業。第75回読売新人演奏会出演。第17回ショパン国際ピアノコンクールinAsiaアジア大会銅賞。在学中より、作曲科の授業受講、合唱授業アシスタント、数多くの器楽、声楽伴奏、ブラスオルケスターのチェレステ、ピアノパート、ヤングプラハ音楽

祭でのヤングプラハ合唱団の下振り、伴奏等、幅広く活動。卒業後は三鷹市芸術文化センターにて「ヴァイオリン、ピアノ、弦楽四重奏の協奏曲」(ショーソン作曲)ソリストを務め、横浜うかい亭ディナーショーで、作曲家篠原敬介氏に見出され、ストラヴィンスキー「火の鳥」ピアノ独奏CDをオクタヴィアレコード(TRITON)よりリリース。横浜みなとみらいホール他でCD発売記念リサイタルを開催。

高尾茂治、故吉田文子、菅野雅紀、向井小百合、金子勝子、中丸三千繪の各氏に師事。

海外においては、ウィーンにてG.ディヒラー氏のレッスンを、マスタークラスにて、ジョルジュ・ナードル、ノーマン・シェトラーの各氏のレッスンを受講。

三鷹・武蔵野マーマーコール及び八王子マーマーコールの主宰・指揮者。 中尾音楽学院講師、楽友三田会合唱団ピアニスト及び、男声合唱団「羅漢」 ピアニスト。

RieTAcademy株式会社代表取締役。